

## 長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀

### 税金によってもたらされる快適な生活

長岡市立北辰中学校

三年 阿部 風沙

「消費税が上がるって何？」二〇一九年十月、消費税が十パーセントに引き上げられる、というニュースを見て、当時の私を感じたことです。インターネットで調べてみると『社会保障・福祉、公的サービスを運営するための費用である』ということが書かれていました。しかし、小学生だった私には難しく、理解することができませんでした。それでも何かを購入した際には、商品の値段に消費税を上乘せして払わなければいけないということはわかっていました。そのため、消費者の立場としては不満を感じることはありませんでした。そして今回、今まであやふやなままでいた税金について「租税教室」で詳しく学ぶことができました。

税金は主に「公共サービス」「社会資本の整備」の二つを支える役割を担っています。公共サービスとは教育や医療、警察などのことです。具体的には学校で使っている机や椅子、教科書などは税金によって賄われています。医療では風邪をひいたり、怪我をしたりして病院で手当てをしてもらう際、お金がかかりますが、かかった金額の一部には税金が使われています。警察ではその都度、直接お金を支払わなくても地域の安全を守ってくれます。税金があることで、私たちはこれらの公共サービスを受け、快適に過ごすことができます。

社会資本の整備とは、道路や上・下水道の整備のことです。道路や橋を作ったり、壊れた際にすぐ修理したりしてくれます。また、上・下水道が整備されることで、蛇口をひねれば水道から清潔な水を手に入れることができます。つまり、税金があるからこそ、私たちは何不自由なく生活することができるのです。

このように、私たちが健康で豊かな生活を送るため、よりよい社会を作っていくためには、税金が使われます。個人や企業の力だけではなし得ない「公共サービス」「社会資本の整備」を実現させるために、税金を払っているのです。つまり、税金は私達の生活に必要不可欠な存在であると言えます。

今回の授業を通してこの事実を知り、私の税金に対するイメージが大きく変わりました。今まで、税金が上がっても日常生活の中で恩恵を肌で感じるものが少なく、払ってばかりのように思うことがありました。しかし、舗装された道を通り、橋を渡り、エアコンの効いた中で学習できること。そして事故や火事の際には助けをもらうことができる安心感。「恩恵を肌で感じるものが少ない」ということは、「税金によってもたらされる、安全で快適な生活が当たり前になっている」ということを意味しているのだと気づきました。これからは、国民が互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくための税金であることを忘れずに、きちんと納めていきたいです。